

欧州紀行(11) ドーバー訪問

2023-7-8 池田良穂

「アンセム・オブ・ザ・シーズ」の地中海クルーズを終えてサウサンプトン港に戻ってから、同港の対岸ハイスのホテルに2泊しました。下船後にゆっくりしたかったわけではありませんでしたが、ちょうど週末のためにロンドン発の飛行機の値段がとても高くて、日曜まで待つとかなり安くなるのがわかったためです。

滞在が長くできたうちの1日には、ぜひドーバーに行きたいと思っていました。ドーバー港発着の海峡横断航路は、運航会社の構成も変わってフランスの会社が消え、アイルランドの会社アイリッシュ・フェリーが新規参入し、デンマークの DFDS も前述のフランスの会社を引き取って参入、また P&O フェリーは両頭の大型カーフェリーを中国で建造して投入したとの情報にも接していたからでした。

ただ、サウサンプトンからドーバーに行こうとすると、一度、ロンドンまで列車で行き、そこからドーバーへの列車で下らねばならず、片道4時間近くかかります。

そこでサウサンプトンのタクシーにあたってみると、片道3時間ほどのドライブで、1日チャーターをすればドーバー日帰りが可能なのがありました。思い切ってタクシーをチャーターしての日帰りのドーバー訪問を決行することにしました。

決行前日までは、ドーバーからカレーまでフェリーでの往復乗船を考えていましたが、5時間近くタクシーをドーバーで待たせなくてはならず、ドーバー横断航路は往路と復路が大きく離れていてフェリーの上から反航船が撮影できるのはドーバーとカレーの港の入口付近に限られるため、乗船して同航路の全船を船上から撮影することは無理そうです。しかも3週間近く続いたよい天気も下り坂で、にわか雨が降る予報もでていました。そこでフェリーターミナルの背後の絶壁(いわゆるドーバーの白い壁の一部)の上に立つドーバー城からの定点撮影に切り替えました。この城の外壁の一面からは、フェリーターミナルが眼下に見えて、ドーバー海峡横断フェリーの出入りをすべてウオッチすることができます。ここで、約3時間強でほぼ全船を撮影することができました。



ドーバー城の灯台(手前)と城(後方)です。



ドーバー城からのフェリーターミナル全景です。ドーバー東港と呼ばれており、かつて鉄道連絡船やホーバークラフト、超高速カーフェリーが使っていた西港は、現在はクルーズターミナルとして整備されています。

P&O フェリーズ

英国の老舗海運会社の1つであるP&Oが、欧州でのフェリー運営を手広く行う中の1つがドーバー海峡横断航路で、1987年にタウンセント・トールセン社を買収してP&O ユーロピアン・フェリーズとして運航を開始し、その後スウェーデンのステナ社と合併のP&O ステナラインとして運航していました。2002年には、ステナ社との合併を解消して、P&O フェリーズとしての運航を始めています。最近では、労働争議が深刻化しており、同社の行く末が不安視されています。



中国で建造された両頭カーフェリー「P&O パイオニア」です。47,394 総トン、旅客定員 1500 名、17 ノット。姉妹船「P&O リベルテ」が今年 11 月に竣工予定。スピードが遅いせいか、ドーバー海峡航路通過船を避けて横切るのに時間がかかるなど、問題点も多そうです。



出港する「プライド・オブ・カンタベリー」です。1992年に就航した、P&O フェリーのドーバー海峡横断航路の最古参船です。30635 総トン、旅客定員 2000 名、21 ノット。



出港する「スピリット・オブ・ブリテン」です。47592 総トン、旅客定員 1050 名、22 ノット。完成後「オリンピック・スピリット」として就航していましたが、のちに改名しました。



沖合で「P&O パイオニア」の入港を待って待機していた「スピリット・オブ・フランス」です。47592 総トン、旅客定員 2000 名、22 ノット。完成後「オリンピック・プライド」として就航していましたが、のちに改名しました。



ドーバー港の一面で係船中の「プライド・オブ・ケント」で、「P&O パイオニア」の就航に伴って引退したようです。30635 総トン、旅客定員 2000 名、21 ノット。

DFDS Seaways

ドーバーとダンケルクを結ぶ新規航路に進出した後、フランスのフェリー会社シーフランスから航路を譲り受けてドーバー～カレー航路にも進出しています。ダンケルク航路に 3 隻、カレー航路に 2 隻を運航しています。使用しているのは 20～25 ノットの高速船です。



入港する「デルフト・シーウェイズ」です。ダンケルク航路に就航する 3 姉妹船の 1 隻で、建造当時の水色の塗装から、濃紺に変わっています。船首に付きだした特異な構造物は、フランス側の港で専用岸壁に位置を合わせるためのもので、各社船ともフランス側は船首づけ、ドーバー側は船尾づけとなるため、同様の構造物を船首に付けています。35923 総トン、旅客定員 1000 名、26 ノット。



入港する「ダンケルク・シーウェイズ」です。「デルフト・シーウェイズ」と同型姉妹船です。もう一隻の姉妹船「ドーバー・シーウェイズ」とは、ドーバー訪問時には会えませんでした。



カレー航路の「コート・デ・デュン」Cote Des Dunes で、元フランスのフェリー会社シーフランス社の「Seafrance Rodin」です。白い船体から、DFDS の紺色の塗装に変わりました。25 ノットの高速船です。



出港する「コート・デ・オパール」Cote D'opale です。2021 年に中国で建造され、40331 総トン、旅客定員 890 名、22 ノットです。



「コート・デ・フランダース」Cote Des Flandres です。元、シーフランスの「Seafrance Berlioz」で、移籍後もフランス国籍を維持しています。

アイリッシュ・フェリー

アイルランドとイギリスを結ぶフェリー会社アイリッシュ・フェリーズが、同社にとっては「3 国間航路」であるドーバー～カレー航路に新規参入していました。



「アイル・オブ・イニシュモア」Isle of Inishmore。34031 総トン、旅客定員 2200 名、21 ノット。



「アイル・オブ・インイスフリー」Isle of Innisfree。28833 総トン、旅客定員 1100 名、20 ノット。



「アイル・オブ・イニシアー」Isle of Inisheer。元スペインのトラス・メディタリニア社の[Ciudad de Mahon]で、22152 総トン、旅客定員 2200 名、21 ノット。